

TOKYO人権

The line is me, the line is you

特集 01 境界線は、わたし自身の、そしてあなた自身の中に 沢 知恵

特集 02 回復者の方々と社会の架け橋に 国立ハンセン病資料館

vol. **34** 2007.06

財団法人 東京都人権啓発センター

特集 01

TOKYO人権

The line is me, the line is you

境界線は、わたし自身の、そしてあなた自身の中に

シンガー・ソング・ライターの沢知恵さんは、日本人の父と韓国人の母の間に生まれ、韓国、アメリカ、日本で育ちました。3カ国語で紡ぎ出す言葉やメロディは、力強く、しかし聴く者を癒すような不思議なやさしさにもあふれています。複雑な生い立ちをユーモラスに歌った《私はだれでしょう》や、人と人とを隔てる見えない境界について描いた《ザ・ライン》、みんなで一緒に歌える《リッスン・トゥ・マイ・ヴォイス》など、沢さんのコンサートは誰もが楽しめて、そしてちょっぴり考えさせられます。毎年、国立ハンセン病療養所の大島青松園(香川県)でもコンサートを開催しているそうなのですが、そこにはどんな思いが込められているのでしょうか？

“見えない境界線”は
わたしたちの中にある。

Q ご両親とも牧師で、お母さんは韓国人。3カ国で子ども時代を送ったそうですが？

そういう両親のもとに生まれたことが、わたしにとってはごく当たり前で、子どもの頃は特に意識したことはありませんでした。両親の考え方にはとても影響を受けましたね。たとえば仕事などで一時的に海外に住んでいる日本人家庭のように「学校では外国語でも、家では日本語で話さない」とは、わたしの両親は言わなかったんです。家族の中でも共通の言語がありませんでしたから、韓国にいる間は韓国語で話し、アメリカにいる時は英語で、日本では日本語を話していました。ある意味でいかげんな両親でした(笑)。自分の子どもをどの国の人として育てたいという思いがそれほど強くなかったんでしょう

ね。二人とも信仰が篤かったので、国籍とか民族的アイデンティティよりも、神様を大事にして信仰を継いでくれば、他のことは大した問題ではないと思っていただきたいと思います。おかげで、自己形成していく多感な時期に国や民族アイデンティティに思い悩むことはありませんでした。そのせいか、差別を受けた記憶もありませんし、いじめられた経験もありません。

《私はだれでしょう》という歌は“川崎でうまれて あちこちで育ち 朝は納豆 夜はキムチ♪”という歌詞です。しかし、これはアイデンティティの葛藤から生まれたのではなく、そういうことにこだわると笑って飛ばす歌なんです。大学生の時にスカウトされてデビューしたのですが、販売戦略の会議で「あなたはいったい何者なの？一言で説明してよ！」と言われて、とても困りました。人生を一言に単純化できるわけがないですね。それで、いつも自己紹介



PROFILE
さわ ともえ
沢 知恵さん

1971年、神奈川県川崎市で日本人の父と韓国人の母の間に生まれる。両親ともに牧師。母方の祖父は、韓国で文化勲章を受章し、日本では北原白秋らに高く評価された文学者の金素雲。幼い頃より韓国、アメリカ、日本で育ち、ピアノに親しむ。東京芸術大学在学中に歌手デビューし、現在までに15枚のアルバムを発表。96年より海外でもコンサート活動を開始。98年、韓国光州で行なわれた「KWANGJU JAPAN WEEK」にて、日本国籍を持つ者として初めて韓国国内で公式に日本語の曲(《こころ》と《故郷》)を歌った。同年、第40回日本レコード大賞アジア音楽賞受賞。2001年より毎年ハンセン病療養所大島青松園(香川県)で無料コンサートを開催。また、東京・下北沢「ラ・カーニヤ」にて季節公演を行っている。

に時間がかかるから歌にしてみたんです。“私はだれでしょう 私は私 ♪”って。どうせ歌うなら楽しく歌いたいでしょ。

でも、在日コリアンの方々が、あの歌を聞いて涙されることがあって、それには驚きました。たしかに、私は私だ、と言いたくても言えない人たちがたくさんいる。そういう人たちにとっては、民族的アイデンティティの葛藤と重ねるわけですか

ら、あの歌が応援歌のように感じられるのでしょうか。



さまざまな経験や想いをどのように曲作りに結びつけているのでしょうか？

作詞する時は何語で書くんですか？とよく聞かれます。盛岡スコール高校というユニークな教育を実践している学校から校歌の依頼を受けた時は、3カ国語で作りました。最初に日本語で。でも、日本語から他の言語に翻訳して歌詞をつけるわけではないんです。メロディーと歌詞は一体のものですから、翻訳ではうまくいかない。わたしの頭の中はこっちの言語からあっちの言語へスイッチが切り替わるような感じになっていて、メロディーに合わせてその言語での自然な歌詞が思い浮かびます。

子どもの頃、アメリカから日本に来たときに、その文化の違いに驚きました。アメリカでは他人と違うことが良いことだったのに、日本ではそうじゃなかった。すぐに自分を隠すことを覚えて適応しました。日本では自由であることがとても難しいと思います。だけれど、自由でなければ生きている意味が無いと思う。だから、わたしの音楽はとても率直です。人によって「すぐ癒される」という場合と、逆に「率直さに心が揺さぶられてつらい」という場合に分かれるようです。癒しと痛みは、表裏一体。本当の意味での癒しは、痛みやつらさにちゃんと直面した上で、それを乗り越えなければ訪れません。

たとえば、《ザ・ライン》という曲は恋愛経験をもとにつくりました。わたしはアイデンティティには悩まなかったけど、

恋愛ではずいぶん苦しみました。おかげで歌がたくさんできて、元が取れたよ(笑)。愛しているのに憎んでしまう。そんな苦しい思いをしていたときに、ふと「原因はわたし自身にあるんじゃないの?」と思ったんです。愛と憎しみを分ける線というのは、外にはなく、わたしの中にあることに気がついたんです。つまり二つの物事を区別する線は他ならぬわたしが作り出したものなんだ、“The line is me.”境界線はわたし自身なんだって。そしてそれは、ほかのことに当てはまるんじゃないか。そう考えると、“Where’s the line between love and hate ♪”から始まって“man and woman”や“north and south”といったように、世の中みんなそうなんだ、と気づきました。曲にする時は普遍性を持つように作るの、どんな解釈をされても構いません。ただ、この《ザ・ライン》を日韓関係を歌ったテーマソングだと言われたときには、あえて「これはラブソングです」と強調しました。極端に言えば、すべての歌は愛の歌であるとも言えますから。わかりやすいメッセージを安易に求めてしまう風潮は良くないとおもいます。もっと想像を膨らませて自由に聴いてほしいなと思います。

おおしませいしょうえん 大島青松園コンサートの客席は理想の社会の姿

おおしませいしょうえん 大島青松園の皆さんとのお会いについて話してください。

香川県にある大島青松園は、全国に13カ所あるハンセン病療養所のうち唯一離島に置かれている施設です。父がまだ神学生だった頃にこの島でボランティア活動をしました。1960

年代でしたから、まだハンセン病への差別が強く残っていた時代です。父は島の療養所で暮らすハンセン病回復者の皆さんと兄弟のように仲良くなったそうです。その後、生まれて間もないわたしを島の皆さんに見せたくて、父はわたしを島へ連れていきました。それが1971年の夏、わたしは生後6カ月でした。「赤ちゃんにハンセン病がうつったらどうするんだ?」と、周囲からはずいぶん反対されたみたいです。しかし、父はこの病気について正しい知識を持っていましたから「そんなことは絶対にない」と言って強行しました。島の皆さんは、その日のことをまるで昨日のこのように覚えていてくれます。なぜなら、それまで島の皆さんは赤ちゃんを見たことがなかったから。ハンセン病の療養所では子どもを持つことは許されなかったのです。結婚の条件として男の人は断種。女の人はもしも妊娠したら堕胎。そんなつらい経験をしている島の皆さんにとって、子どもというのはあまりにもせつない存在です。そんな複雑な思いで、島の皆さんは赤ん坊だったわたしを抱いてくださったんです……皆さんのその時の気持ちを想像すると、本当に胸が締め付けられる思いがします。

おおしませいしょうえん 大島青松園で毎年コンサートを開催するようになったきっかけは？

「らい予防法」が廃止された1996年、20年ぶりに島へご挨拶に行っただけです。そうしたら、皆さん涙を流しながら「知恵ちゃん、よく来たね」と言ってくれたんです。何十年経っても人が人のことを覚えている!これほど深い愛があるのでしょうか。あなたのことをいつも気

にしている——その愛の深さに圧倒されて、わたしも泣いてしまいました。それ以後、四国で仕事があると、必ず里帰りのようにして足を運んでいます。

何年か通ううちに、仲良くしてくれたおじいちゃんおばあちゃんが、ひとりまたひとりと亡くなっていきました。現在、全国の療養所入所者の平均年齢は78歳を越えています。一人でも多くの方が元気なうちに、いただいた愛情に対して何かお返しをしたいと思ったんです。自分だったらなにができるのか…。すごく悩んで考えた末に「あ、歌だ」と。どうしてすぐにも思いつかなかったんだろう(笑)。

昔は療養所には娯楽がありませんでしたから、島の皆さんは歌が大好きです。コンサートには島外から一般のお客さんも迎えます。アカペラで幕を開け、《リッスン・トゥ・マイ・ヴォイス》というリズムのとりにやすい曲へつなぎます。すると小さい子は一緒に歌い、手で拍手のできない方は足で拍子をとるんですよ。あと、必ず《ふるさと》を歌いますが、そうするとみんないっしょに大きな声で歌ってくれます。

大島青松園のコンサートでは、小さいお子さんからお年寄りまで様々なお客さんが一堂に会しますから、曲目を決めるのに的がしぼれなくて「どうすりゃいいんだー？」(笑)。このコンサートは、不思議と他とくらべて一番良いものになります。とにかく温かい。どんな人でも楽しめる。違いを持ったいろいろな人がひとつになれるコンサートなんです。年齢、性別、障害の有無など——あらゆる“ライン”を取り払った世界が、そこにあります。ステージから客席を眺めると「ああ、美しいなあ、世の中がこうだったら

なあ」と感じます。そういう意味で、大島青松園のコンサートの客席は、あるべき美しい社会の姿だと思えます。

大島青松園は今、過渡期にあります。入所者数が少なくなってきたことが大きな理由ですが、統廃合に向けての動きが出てきています。入所者の皆さんは隔離政策で、生まれ故郷を奪われていますから、今まで暮らしてきた療養所が第二の故郷なんです。なのにどうして、希望通りに人生の最後をそこで送らせてあげられないのでしょうか。入所者の皆さんは再び故郷を失うことにとても不安を感じています。わたしがコンサートをやる意味のひとつは「ここに大島青松園があるよ」と世間の人々に訴えたいからなんです。

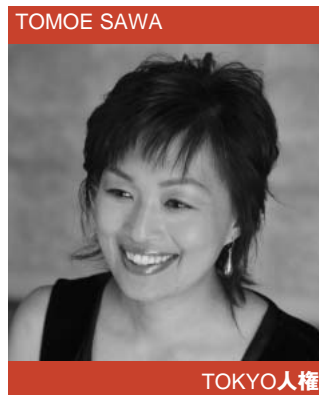
わたしが死んだ後にも「いい歌だよ」って言ってもらえたら

Q 夢やこれからの希望について話してください。

もっとメジャーな活動をすればいいのにとよく言われるのですが、大きく儲けようとするとは本意な仕事でも受けなければなりませんよね。それよりも、精神の自由の方がわたしにとっては大切です。「有機農法のように音楽活動してます」って言うとうわりやすいんじゃないかな。その時々での出会いを大切に地道に今の活動を続けていけたらなあとおもっています。

そして、わたしが死んだ後にわたしの音楽が残ればいいなと思っています。曲が流れた時に「ああ、

この歌知ってる。いい歌だよ」と言ってもらえるのが夢です。



商業主義にはまったく興味が無いんですが、武道館公演とグラミー賞受賞が夢なんです(笑)。ものすごく商業主義に聞こえるかもしれませんが、これは歌い手としての素直な気持ちです。武道館みたいなホールで歌えたら気持ちいいだろうなあ、グラミー賞みたいなすばらしい賞をもらって両親や神様に感謝の気持ちを届けたいなあ、と。もちろん、いままでの活動を大事にしながら、その延長上にそんな機会が訪れるなら……果たしてどうなることか。皆さん、どうぞ見守ってください。

取材・文 山川英次郎

沢知恵さんの新作CD
2007年7月18日(水) 発売予定



りゅうりえんれんの物語

第二次大戦末期からの13年間を描いた、詩人茨木のり子の長編叙事詩。実話にもとづく壮絶なドラマをピアノで弾き語る、70分超の1曲のみ収録。

cosmos records CMCA 2020
2,520円(税込み)

回復者の方々と社会の架け橋に 国立ハンセン病資料館



東京都東村山市にある国立ハンセン病療養所「多磨全生園」。その敷地の隣にあるハンセン病資料館が平成19(2007)年4月にリニューアルオープンしました。改装のためにおよそ1年半の休館をへて、今回新たに開設された資料館は、ハンセン病問題のこれまでの歩みの中でどのように位置づけられ、また、将来にわたる解決への道すじの中で、どのような役割を果たして行くのでしょうか。新しい展示と、その考え方を中心に取材しました。

リニューアルに至る経緯

高松宮記念ハンセン病資料館(以下、旧資料館)は平成5年に開館しました。その設置目的は、ハンセン病患者、回復者の「生きた証」を語り継ぐことと、同じ過ちを繰り返さないために、ハンセン病に関する資料を収集・展示することなどを通じて、ハンセン病の問題を社会へ訴えかけていくことにありました。

「旧資料館は半官半民のような存在で、今回のリニューアルにあたって、改めて国立の施設になったのですが、設置の目的は平成5年に開館した当初のまま継承しています」(学芸員・稲葉上道(いなばたかみち)さん)。

13年間にわたる旧資料館の活動や、設置理念を引き継いで、今回新たに国立ハンセン病資料館がオープンしたということになりますが、それでは、そもそもなぜ、このタイミングでリニューアルが行われることになったのでしょうか。

平成13年、ハンセン病回復者を原告団とする国家賠償請求訴訟(らい予防法違憲国家賠償請求訴訟)において、原告側の勝訴が確定しました。強制隔離に象徴される、国のハンセン病政策の転換が遅れたことに関する責任が問われたこの裁判の結果を受けて、「ハンセン病問題の早期かつ全面的な解決」をめざすことを謳う内閣総理大臣談話が発表されました。平成8年の「らい予防法*」廃止と並んで、日本のハンセン病問題における大きな

転換点が訪れたこととなります。

この中で、補償に関する立法措置などととも、名誉回復のための措置として、ハンセン病資料館の充実があげられました。そこでは「ハンセン病問題を解決していくためには、政府の取組はもとより、国民一人一人がこの問題を真剣に受け止め、過去の歴史に目を向け、将来に向けて努力していくことが必要」という認識が示されています。

*らい予防法:「らい(癩)」はハンセン病の旧称。その名称が歴史的に多くの偏見をもたらしたことから、現在ではハンセン病に改められている。明治40(1907)年「癩予防二関スル件」から、昭和6(1931)年「癩予防法」制定へと至るハンセン病対策において、国による患者の隔離政策が押し進められた。第2次大戦後、「らい予防法」が成立したが、基本的な方針は変わらなかった。なお、ハンセン病資料館では、歴史的言辞として必要最小限の範囲で「らい」の言葉が使用されている。

新しい展示

首相談話で謳われた「資料館の充実」は、具体的には、新館の建設として結実することになりました。新館は、旧資料館につながる西側の敷地に建設され、その2階に旧資料館から常設展示室が移設されました。

常設展示室のフロア面積はおよそ980㎡で、これは旧資料館展示室の2.6倍の広さになっています。また1階には映像ホールや研修室が配置され、普及啓発のための機能が

備えられています。一方、旧館の2階、旧資料館の展示室があった部分は、新たに企画展示室が設けられました。また、図書室など情報提供のためのスペースも拡充されて、同じフロアに配置されました。

それでは、常設展示の構成と、その中身についていくつか見てみましょう。

常設展示室は三室にわかれています。展示室1は歴史展示。ハンセン病の歴史を通してみる患者・回復者やその家族への偏見と差別、人権の回復について、パネルや写真を使って説明がされています。展示室2は「癩療養所」。かつての療養所での暮らしを中心に、患者の置かれた苦しい状況や処遇について、再現模型などを交えて展示しています。



展示室の中に再現された療養所の雑居部屋

そして、展示室3は「生き抜いた証」として、患者・回復者が厳しい状況をどのように生き抜き、生きる意味を見出してきたのかについての展示です。療養所における文芸活動や文化活動

の取り組みとその作品、処遇の改善や名誉回復等をめざして行われた患者運動などが展示されています。このゾーンには「証言コーナー」が設けられており、約40人の回復者の方々による証言映像が新たに集められました。

来館者は、導線に従って、展示室1でハンセン病問題の歴史について一通り把握した上で、展示室2、3へと進み、問題のより深い理解へと導かれるという流れです。展示室1がセンターに配置され、左右に振り分けられた展示室2、3は、展示通路でつながっているという空間構成は、展示テーマの独立性を保持しつつ、患者・回復者にとって、療養所での生活と、そこで生み出された様々な作品が、密接なつながりを持っていることを象徴的に表しているということができます。

「患者・回復者にとって療養所というのは、すべてが凝縮された空間です。例えば、処遇改善の運動を行えば、その結果として、療養所の変化がもたらされますが、これは本人にとって、非常に大切な証し、いわば生きていることの具現です。つまり療養所は、一方で、隔離・差別の忌まわしい象徴であるとともに、患者・回復者にとって自己実現の大切な場でもあるという、相反す

る面を持っているのです」(稲葉さん)

展示室2では、葬送について扱った「療養所の中の死」や、入所前の「『宣告』と収容」などがコーナーとして新設されました。「癩病妙薬の石碑」など今回初めて展示される資料もあります。また、これまで公開されていなかった写真資料が展示パネルの中で随所に使用されています。

ハンセン病回復者と 社会をむすびつけない

オープンしてまだ二ヶ月ですが、来場者から寄せられる声には、入所者の方々を励ますものが多いとのこと。他方、国の責任についての表現が曖昧なのではないかというきびしい指摘もあるそうです。

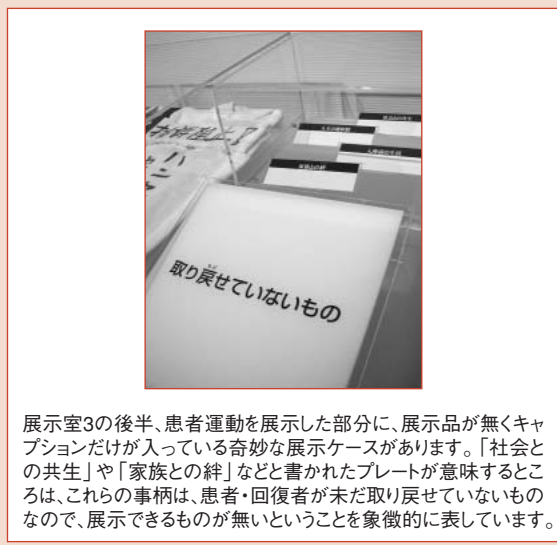
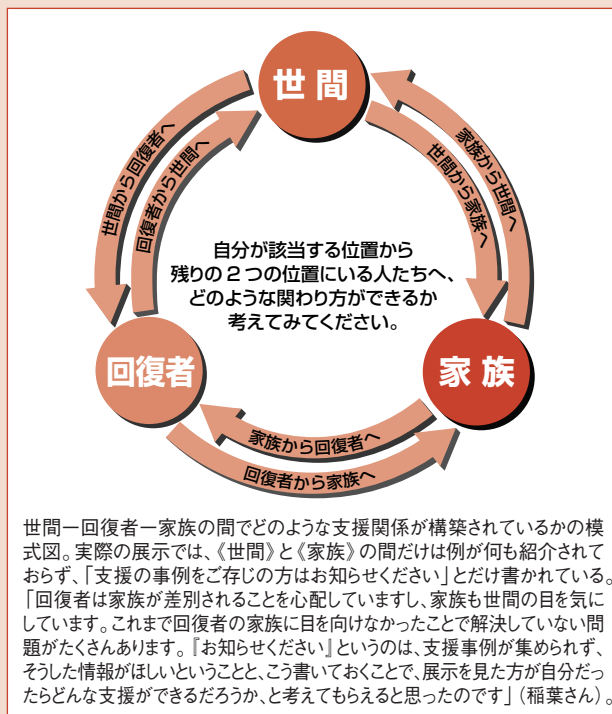
「ハンセン病の歴史から引き出せる学びの一つは、同じような構図をもって、私たちがまた別の差別を繰り返してしまうかもしれない、それを防ぐにはどうすれば良いのか、ということです。話が抽象的では自分の問題としてとらえられませんから、何がどこでどう間違えたのか実例を挙げなくては語れません」(稲葉さん)。

実際に、療養所への患者収容が始

まり、やがて隔離政策の強化が行われた時期において、世間的な反応の中には、「ハンセン病患者は療養所にいる方が、社会の偏見にさらされているより幸せなのだ」という思い込みがあったことも事実です。つまり、政策レベルでの責任の所在とともに、社会が、そして私たちが、この問題にきちんと向き合わなければ、本質的な解決というものは見えてきません。

今後の活動に関して、回復者の方々に『ハンセン病回復者』という集合体として見るのではなく、あくまでも“ひとりひとりの人”として接してもらえるようにと稲葉さんは言っています。

「例えば、入所者の高齢化など療養所の将来像については差し迫った問題です。現実には起こっている具体的な問題から遊離しない展示をしていきたいと思っています。現在、回復者の方々が高齢のため徐々に亡くなっていく時期にさしかかっています。社会から疎外されたまま迎える死というものが、本人にとってどんなにつらいことか。展示を見た人たちが、自分自身の生き方の問題として、人と人の自然なつきあいやつながりを、もっとつくっていけるような、そのきっかけをこの資料館が作れたらと思っています」。



国立ハンセン病資料館
 東京都東村山市青葉町4-1-13
 TEL:042-396-2909 FAX:042-396-2981
 ホームページ:<http://www.hansen-dis.or.jp/>

伝言板 1

(財) 東京都人権啓発センターの行事案内

information 01

「群読」公演

原作 浅田次郎 出演 劇団東京ルネッサンス
脚本・演出 増岡 弘

観客の皆様からご好評をいただいている「群読」公演は今年5回目を迎えます。今回は、アンコール上演の3作に加え、新作「流璃想(リウリイシアン)」を上演いたします。脳裏にひろがる直木賞作家・浅田次郎の作品世界をお楽しみください。

2007年7月7日(土)

昼の部 12:30 開場 13:00 開演～15:00
「流璃想(リウリイシアン)」 「角筈にて」
夜の部 17:30 開場 18:00 開演～20:00
「うらぼんえ」 「鉄道員(ぼっぼや)」

※昼の部と夜の部は別料金になります

流璃想(リウリイシアン)

幼少期を過ごした北京の街を52年ぶりに訪れた紅林。酷暑の北京を歩くうち、封印されていたつらい記憶が次第に甦り…。親子、男女の切ない情感が聞く者の胸に余韻を残す物語。

一般 2,000円(前売1,500円)
60歳以上 1,500円(前売1,200円)
高校生以下

江戸東京博物館ホール

墨田区横網1-4-1 JR総武線「两国駅」から徒歩3分、都営地下鉄大江戸線「两国駅」から徒歩1分

お問い合わせ(前売券お求め先)

(財) 東京都人権啓発センター 普及情報課

TEL 03-3876-5372 URL <http://www.tokyo-jinken.or.jp/>

(株) プランニング・ヴィ

TEL 03-3379-8292 URL <http://www.planning-vie.co.jp/> (午前10:00～午後6:00)



劇団代表・増岡 弘

「サザエさん」のマスオさんや「それいけ! アンパンマン」のジャムおじさん役などでお馴染みの声優。アニメや洋画の吹き替えなどで活躍中であり、日本各地を講演し、著書を出版するなど幅広く活動している。一方、昭和37年から劇団東京ルネッサンスの代表を務め、俳優や声優による「群読」を各地で公演しており、聴衆に深い感銘を与え高い評価を得ている。



伝言板 2

6月は「就職差別解消促進月間」です

information 02

テーマ: なくそう就職差別、問われる企業と社会の人権感覚

就職は、生活の安定確保や労働を通じた社会参加など、人間が幸せに生きていくうえで基本となるものです。このため、採用選考は応募者の適性と能力に基づき公正に行われなければなりません。東京都では、6月を「就職差別解消促進月間」とし、就職差別をなくし就職の機会均等を確保するため、東京労働局及びハローワーク等と連携してさまざまな啓発活動を展開します。この機会に、就職差別など企業内における人権問題について、ぜひ一緒に考えてみませんか。

月間事業 講演と映画の集い

日時 6月26日(火) 午後2時から4時まで

定員 400人 (無料・当日先着順受付)

会場 みらい座いけぶくろ(豊島公会堂) 豊島区東池袋1-19-1

講演 「人権尊重と企業の社会的責任」 講師 永峰好美((株)プランタン銀座 取締役)

映画 「企業に求められる人権意識とは?」

お問い合わせ先

産業労働局雇用就業部労働環境課 TEL03-5320-4649

賛助会員の募集

information 03

● 東京都人権啓発センター賛助会員の募集

団体賛助会員 一口30,000円 個人賛助会員 一口2,000円 (ともに会員期間は会費納入の翌月から1年間)

● 特典(団体会員)

- ・「TOKYO人権」やセンターのホームページに団体会員名を掲載いたします。
- ・「TOKYO人権」や行事の事前案内などをお送りします。

団体賛助会員の皆様(平成19年5月現在)

(株) コ ミ ュ ニ ケ ャ ャ
(株) 東 京 交 通 会 館
劇 団 東 京 ル ネ ッ サ ンス
東 京 人 権 啓 発 企 業 連 絡 会
(有) 東 京 エ イ ド セ ン タ ー
東 京 M X テ レ ビ
(社) 板 橋 区 シ ル バ ー 人 材 セ ン タ ー
(財) 東 京 都 弘 済 会 社
東 京 都 住 宅 供 給 公 社
(株) 日 本 ア ク セ ス
東 京 都 下 水 道 サ ー ビ ス(株)
東 京 地 下 鉄 道(株)
(財) 東 京 都 中 小 企 業 振 興 公 社
(学) 高 宮 学 園 会 社
東 京 都 職 員 信 用 組 合
(株) W O W O W
東 京 電 力(株)
(株) は と パ ス
(株) プ ラ ン ニ ン グ ・ ヴ ィ
(順不同)

お問い合わせは 総務課 TEL 03-3876-5371

リレーTalk

HISAKO ISOBE



株式会社KEA工房
ボディケア担当
磯部 久子さん

TOKYO人権

乳がん手術後の女性を支援する

近年、乳がんの発症率が高まっています。割合が多いのは30～50代、職場でも家庭でも働き盛りの世代です。早期の発見・治療については社会的にも認知されつつありますが、手術後のケアの必要性はまだ知られていません。患部の摘出を受けた場合、体型の変化から精神的にダメージを受け、引きこもってしまうことも少なくありません。これは社会復帰をする上で、女性にとって深刻な問題です。そこで、プレスト(胸部)ケア製品の販売・開発をはじめ、手術後の症状緩和ケアなどさまざまな面からサポートする「KEA工房」の磯部さんに、同社が取り組む活動についてうかがいました。

14年前、会社の一部門として女性下着の専門店を始めました。下着はデザインが美しいことがとても重要ですから、我が社もそういった商品を多数扱っています。しかし“専門店”であるならば、見た目だけではなく、着け心地が良くアレルギー体質の方でも安心できるものもそろえておくべきだと。私自身が敏感肌で下着選びにとっても困っていましたから、乳がんの患者さんはさぞお困りだろうと容易に想像できたんです。

手術後の下着やプレストフォーム(人工乳房)を扱うことになり、そのカタログを病院に置かせていただく営業を始めたのですが…最初は本当に反応が冷たかったですね。あの頃はまだ、患者さんが手術後により良い生活を送ることなどあまり考えられていなかったでしょう。状況が変わってきたのはここ3～4年でしょうか。乳がんについてマスコミでもたくさん報道されるようになりましたし、患者さん方も患者会を結成したりと、ずいぶんオープンでポジティブになりました。それにつれて医療側の対応も変わってきたように思います。

手術後の下着はそれまでにもありましたが、見た目も手術後のデリケートな肌への配慮も不十分なものでした。そこで、患者さんやお医者さん看護師さんのご意見ご要望をお聞きしながら、見た目も良く使いやすさや着け心地にも工夫をこらしたものを自社で開発するようになりました。そして3年前に南青山のお店に専用のフロアをオープンさせました。お店は完全予約制で、専任の女性スタッフがお客様のご希望をうかがって

入念にフィッティングいたします。

患者さんやお医者さんとおつきあいの中で、手術後におこる“リンパ浮腫”のケアがとても大変だということを知りました。これは、患部とともにリンパ節を切除するためにリンパ液の流れが滞って身体がむくむ症状です。この症状を緩和するために、専用のスリーブやストッキングで腕や脚を強く圧迫するのですが、それが関節の裏に食い込んでとても痛いそうです。そこで患者さんのご意見をうかがって何度も試作し、圧迫による痛みをやわらげる補助パットを開発しました。これは都内の授産施設の障害者の方々に作っていただいています。その施設の方々も、患者さんがとても喜んでることを伝えると、すごく嬉しそうにしてくださいませ。

さらに、2年前からリンパ浮腫を緩和するセルフマッサージの講習会も始めました。症状がかなり深刻であるにもかかわらず保険適用の対象外であるため、病院では治療してくれるところが少ないのです。そこで専門のセラピストをお招きし、少人数制で、それぞれの方に合った方法を教授していただいています。

また最近では、これまでに得てきたノウハウを生かして、女性に限らず男性の患者さん用のものですか、人工肛門をつける手術を受けた方のための下着の加工も対応させていただいています。

当社のボディケア事業はお客様から高い評価をいただいております。徐々に広がってきています。しかし、お客様の絶対数が少ないので、採算はとれにくい。こういった事業をおこなう企業が他にほとんど無

いのはこのためです。けれども、お客様に本当に必要とされる事業をおこなっていることが我が社の自負と喜びになっています。ですからボディケア事業は我が社にとって非常に重要な一部門なんです。

今後は後継者を育ててこの事業を引き継ぐことが課題です。利益追求ばかりではなく顧客満足度の高い仕事をこれからも続けていきたいと思っています。

「乳がんの患者さんを支援する」などと言うとたいそう偉そうですが…どのお客様にも、手術を受ける前と同じように、いえ、それ以上におしゃれを楽しめる、そんなQOL(クオリティオブライフ)の高い生活を送ってほしい。それがわたしの願いです。



ボディケアについてのお問い合わせ先

株式会社KEA工房
<http://www.nyugan-kea.com>

青山店

TEL:03-5775-1161 FAX:03-5775-1174
e-mail:info@nyugan-kea.com

横浜店【2007年1月5日 NEW OPEN】

TEL:045-227-8205 FAX:045-227-8213
e-mail:yokohama@kea-kobo.com

財団法人 東京都人権啓発センター

〒111-0023 東京都台東区橋場一丁目1番6号 東京都人権プラザ内
TEL.03-3876-5372 FAX.03-3874-8346 <http://www.tokyo-jinken.or.jp/>

「TOKYO人権」は都内図書館、区市町村窓口などに配布しています。

「TOKYO人権」ご希望の方へ
「TOKYO人権」は年4回発行しています。ご希望の方は、普及情報課までご連絡ください。

